令和8年度全国学力・学習状況調査　せたな町内の状況及び今後の改善方策

小学校数:3校、児童数:27人　中学校数:3校、生徒数:30人

○ 教科に関する調査の状況

【レーダーチャート】

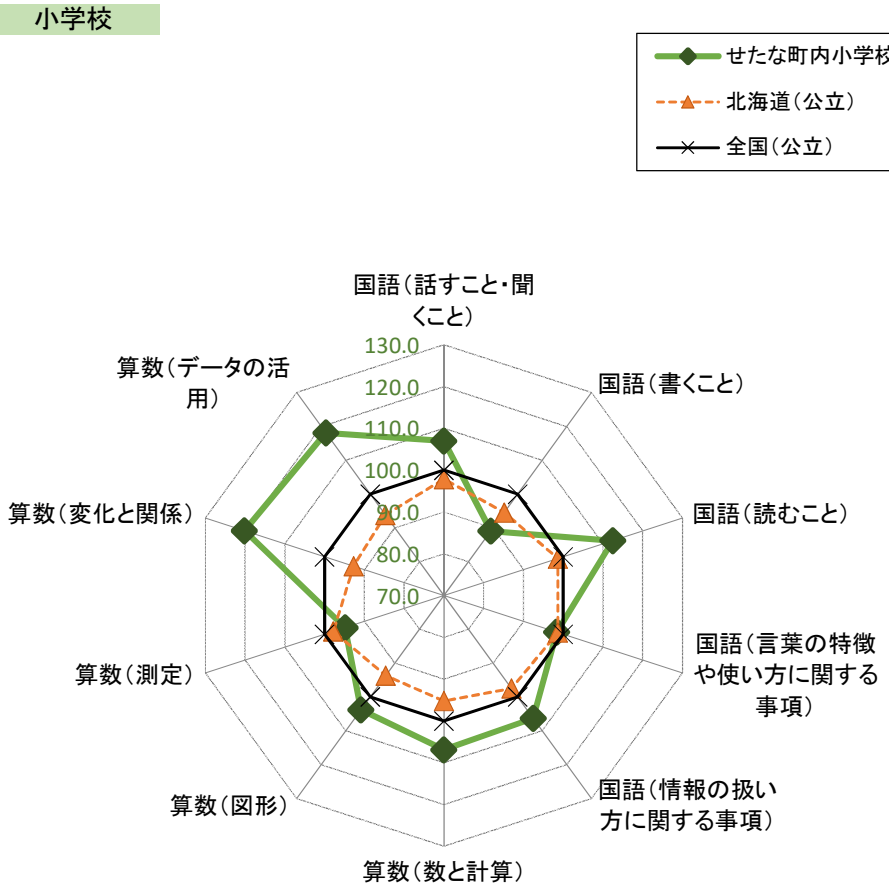
・教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
（市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）
・中学校英語の結果は、IRTスコアで表されるため、レーダーチャートに表示していません

【平均正答率・平均IRTスコア】

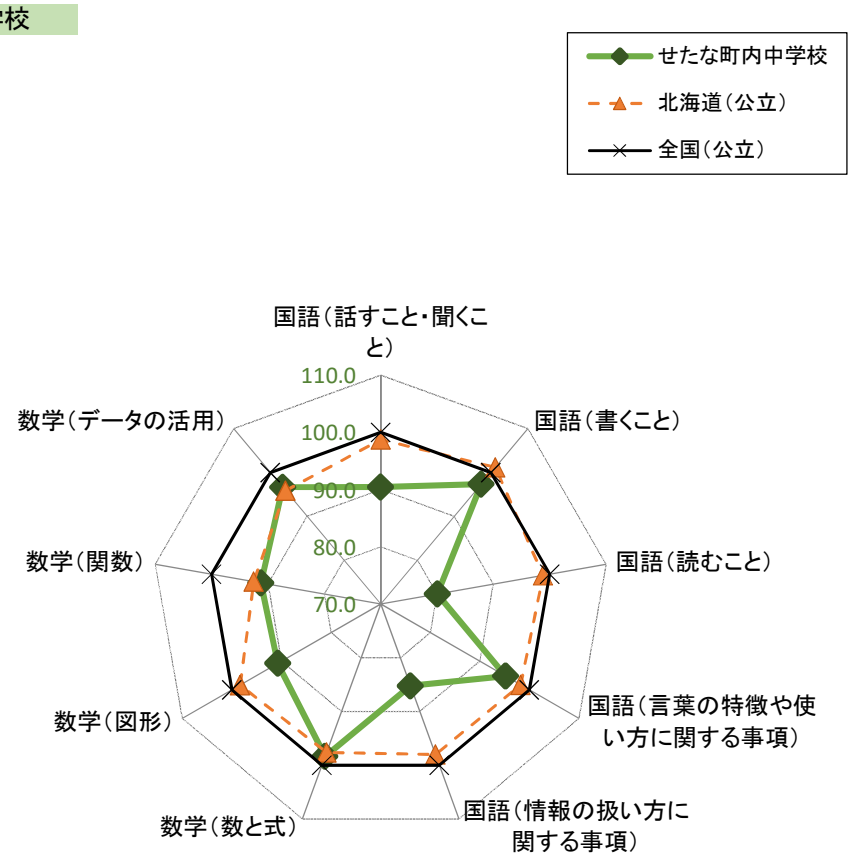
※中学校英語は4技能（聞くこと、読むこと、書くこと、話すこと）の平均IRTスコア

	小学校		中学校		
	国語	算数	国語	数学	英語
せたな町	63.0	63.0	58.0	54.0	457
北海道（公立）	59.6	53.6	63.3	55.0	490
全国（公立）	60.9	56.4	63.9	57.0	499

小学校



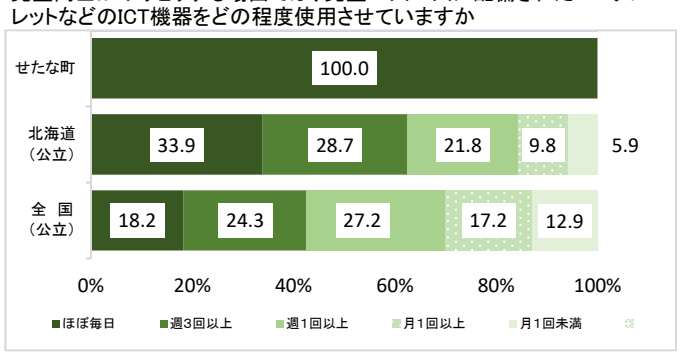
中学校



○ 質問調査の状況

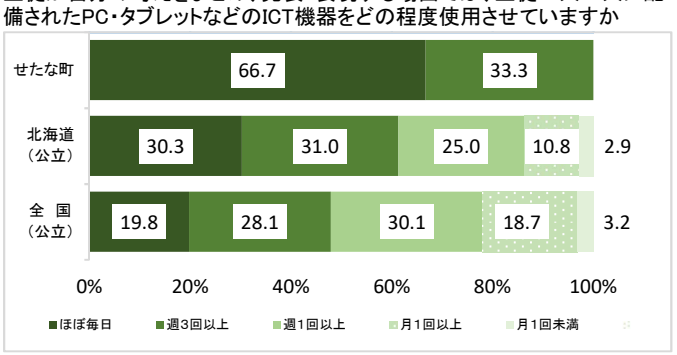
小学校 ＜学校質問＞

児童同士がやりとりする場面では、児童一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用させていますか



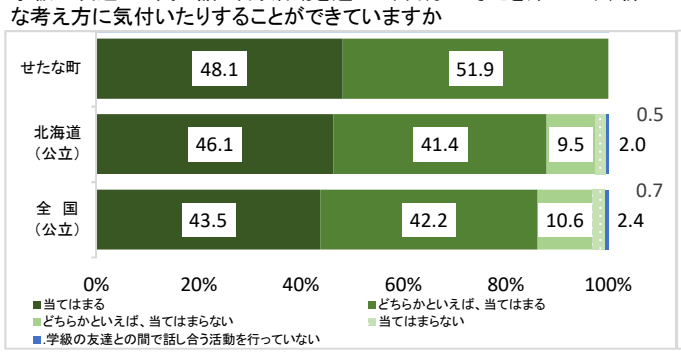
中学校 ＜学校質問＞

生徒が自分の考えをまとめ、発表・表現する場面では、生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用させていますか



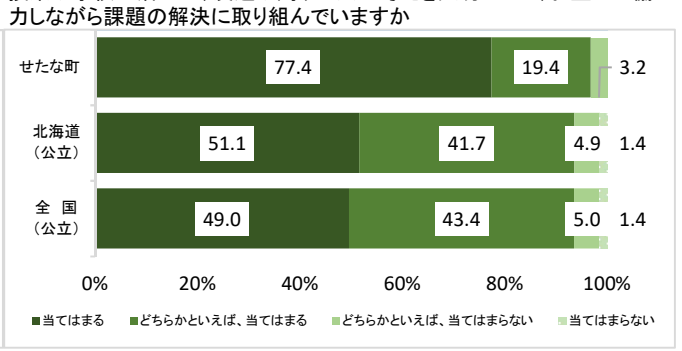
小学校 ＜児童質問＞

学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか



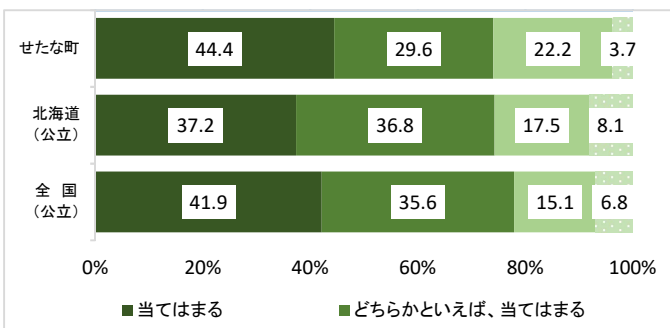
中学校 ＜生徒質問＞

授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切にして、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいますか



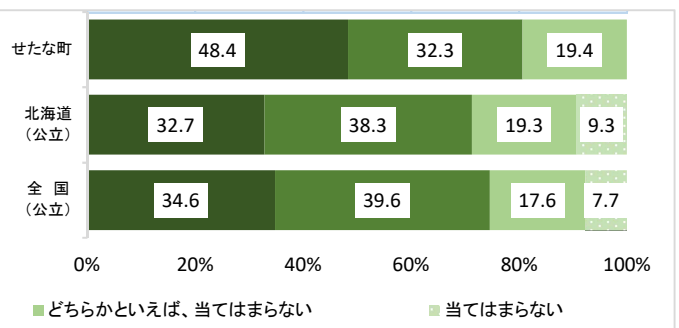
小学校 ＜児童質問＞

算数の授業の内容はよく分かりますか



中学校 ＜生徒質問＞

数学の授業の内容はよく分かりますか



○ 調査結果の分析

・「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができている」と回答している児童の割合が全国及び全道を上回ったことは、小学校において「一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器はほぼ毎日使用している」という割合が全国及び全道を上回ったことが要因の1つと考えられる。より相手に伝えるための手段として効果的な方法を考えながら使用していると考えられる。

・せたな町では共感的風土のある学習環境の充実を目指した取組を進めたことにより、中学校において「授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切にして、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいる」と回答した生徒の割合が全国及び全道を上回ったことが要因の一つと考えられる。

・算数の平均正答率が全国及び全道を上回ったことは、小学校において「算数の授業の内容はよく分かる」と回答した児童の割合が全国及び全道を上回ったことが要因の一つと考えられる。

・「数学の授業の内容はよく分かる」と回答した生徒の割合が全国及び全道を上回ったことは、中学校において「生徒が自分の考えをまとめ、発表・表現する場面では、生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器をほぼ毎日使用している」と回答した割合がが全国及び全道を上回ったことが要因の一つと考えられる。

○ 今後の改善方策

・「調査結果の分析」を踏まえ、より一人一人に合った授業の展開や自ら学ぶ意欲を高められる工夫をしていかなければならない。

・家庭学習や自主学習を意欲的にかつ効率よくできるようなAIドリル等の活用も視野に入れた交流や研修を進めていく必要がある。

・児童生徒が学習も含め、より自らの力を発揮できるような教職員の育成及び体制づくりが必要と考える。